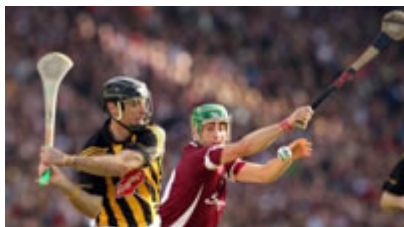


ばつくとうざばすと その31

アイルランドのナショナルスポーツ



ハーリングの2012年オールアイルランドファイナル (RTEニュースインターネット版:<https://www.rte.ie/sport/gaa>, 2012年10月1日)



1910年代Irish Volunteersの訓練、ハーリングのスティックをライフルに見立てている。(ダブリンのGAA博物館、筆者撮影)

アイルランドには、ハーリング、ゲーリックフットボールなどのナショナルスポーツが GAA(ゲーリックアスレティック協会)主導のもと行われている。ハーリングとゲーリックフットボールはサッカーよりやや大きいグラウンドで、H字型のゴールを用いて 15 人で行うゴール型のスポーツである。ハーリングはハールと呼ばれるホッケーのようなスティックとシリターと呼ばれる硬いボールを用い、ゲーリックフットボールはサッカーボールのような球形のボールを用いる。用具の違いを除けば、両方の競技規則はほとんど同じである。9月に行われる全国大会の決勝は、アイルランドで最大のスポーツイベントとなり、約8万 2000 人収容の聖地クロークパークは毎年満員になる。日本でもジャパン GAA が都内で定期的にトレーニングセッションを行っており、アジア大会にも出場している。

では、アイルランドでなぜ、地理的に隣接するイギリスで誕生したサッカーやラグビー、ホッケーではなく、ハーリングやゲーリックフットボールが継承されたのか。

GAA はアイルランドがイギリスの植民地であった 1884 年に設立される。設立の趣旨は、アイルランド人のためにアスレティック大会(陸上競技を中心とした運動会のような大会)を行うことと、消滅しつつあったナショナルスポーツを復活させることだった。当時のイギリススポーツ界は「アマチュア規定(賞金をもらって競技する選手、肉体労働を生業としている選手などの参加を禁止)」のため、一般のアイルランド人は大会に参加することが認められなかった。また、飢饉や貧困に起因する急激な人口減少のため、伝統的なナショナルスポーツの担い手がいなくなっていた。これらの問題を解決するために GAA は誕生する。

設立後すぐ GAA は、アスレティック大会の開催とハーリングやゲーリックフットボールの運営により、アイルランド全土に影響力を持つ組織となる。その成功の一因は、イギリスからの独立や自治を獲得しようとする組織と結びついたことによる。加えて、イギリススポーツの流入に抵抗するため、「GAA 以外が運営するスポーツ大会に参加したものは、GAA の大会への参加資格を失う」「ラグビーやサッカーなどのスポーツを、プレーしたり観戦したりしたものは、GAA の活動を停止させられる」などの禁止条項を制定することにより、組織を絶対的なものとした。

二十世紀初頭、アイルランドの独立運動が活発化する。GAA は独立運動組織のリクルートの場となり、スポーツ活動の合間に、ハーリングのスティックをライフルに見立てた訓練を行ったと言われている(2006 年公開映画「麦の穂を揺らす風」にもこの描写が見られる)。こういったスポーツと政治の結びつきは、戦うための身体訓練や民族意識を高揚させるなど、心身両面で独立運動に強く貢献した。アイルランドの人々にとって、ナショナルスポーツは、単に余暇を埋める身体活動ではなく、自分たちのアイデンティティを確認するシンボルとなった。

GAA はイギリススポーツの流入に対抗し、自国のスポーツ文化を保護することに成功した。しかし、それがあまりにも政治と結びついたため、現在に至っても、一部の地域ではイギリスとアイルランドの分断を再生産している。スポーツの力は、共通の身体経験により人間関係を強固にし、また、言語の壁を乗り越えるなど素晴らしい面を持つが、対立や憎悪を増幅させてしまうこともある。現代社会において、スポーツは我々の生活の一部であり、オリンピックなどメガイベントは世界に対して計り知れない影響力を持つ。スポーツ史を明らかにすることを通して、スポーツが社会に対してどのようなメッセージを投げかけることができるのか考えていきたい。

参考文献 : Marcus De Burca, The GAA: A History, Gill & Macmillan, 2000

(社会システム学科 榎本雅之)